

令和5年度（2023年度）

管理事業名	道路事業				総合計画 の体系	大綱 6 都市形成		
						政策 2 安全・快適な都市を支える基盤づくり		
						施策 1 道路などの整備		
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 8	土木費	(項) 2	道路橋梁費	(目) 3	道路新設改良費	
部局名	土木部	予算執行 所属	道路室 地域整備推進室 総務交通室					

事業の目的と概要

【目的】道路事業では、新設道路の整備や既存道路の改良、維持管理及び修繕等を行っている。これら道路の整備及び適正管理等により、誰もが安全で快適に利用できる道路環境の整備を目指す。
 【概要】主な業務内容は次のとおりである。
 ・道路の維持に係る事務 市道の機能及び構造の保持を目的に、巡回、清掃、剪定等を実施している。
 ・道路の修繕に係る事務 市道の当初の状態への回復や付加的な機能及び構造の強化を目的に、補修工事等を実施している。
 ・道路の改良に係る事務 市道の効用、機能等を現状より良くすることを目的にバリアフリー化の改良工事等を実施している。
 ・都市計画道路の整備に係る事務 都市計画道路千里丘朝日が丘線（千里丘工区）の新設事業を実施している。

I 成果指標（活動指標）

指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	指標の定義
交通バリアフリー道路特定事業の整備率	%	81.8	90.8	91.9	整備済延長／計画延長
舗装の更新計画に対する更新率（新規計画）	%	-	20.1	32.9	舗装の更新延長／計画延長 （令和3年度で計画が完了し、令和2年度に行った路面性状調査結果をもとに令和4年度から新規計画となる。）
都市計画道路の整備率	%	93.0	93.0	93.0	完成延長／都市計画決定延長

II 活動実績・成果

<p>【活動実績】 令和5年度に計画していた道路新設改良事業（バリアフリー道路特定事業）については、江坂町56号線において予定通り完了した。</p> <p>令和5年度に計画していた橋梁新設改良事業（橋梁補修等）については、さんくす橋ほか4橋において予定通り完了した。</p> <p>市管理の道路施設の保守点検、清掃、補修、小規模改良、安全対策等を実施し適切な維持を行った。</p> <p>都市計画道路千里丘朝日が丘線（千里丘工区）の整備に向けた用地取得や道路構造物等の設計を実施するとともに、都市計画道路残地の所管換を実施した。</p> <p>【成果指標】 バリアフリー道路特定事業の進捗率は、江坂町56号線のバリアフリー化実施により、91.9%となり、前年度と比較し1.1%上昇した。</p> <p>路線道路舗装については、路面性状調査によって把握した劣化損傷状態に基づき、南吹田67号線ほか8路線において、舗装工事を実施した。</p> <p>都市計画道路整備については用地取得や設計等を実施している段階であり、都市計画道路の整備率の進捗はなかった。</p>	<p>【財務情報に基づいた評価】 貸借対照表ではインフラ資産土地において、道路の寄附や帰属等による道路用地の所管が増えたため昨年度比約0.1%増となっている。また、インフラ資産工作物においては、道路の寄附や帰属等があったものの、管理している道路施設の減価償却費が上回ったため、昨年度比約4.8%減となった。</p> <p>キャッシュ・フロー収支差額集計表では、投資活動支出において、道路新設改良事業における工事請負費の減少があったため、前年度比約22%の減となっている。投資活動収入においては道路新設改良事業における資産となる工事に対する国府支出金の増加があったため、前年度比約16%の増となっている。また、主に道路や道路附属物等の維持補修費にあたる行政サービス活動支出については、昨年度比約8.1%増となった。</p>
--	--

III 課題と今後の取組

<p>道路事業は、新規道路の整備、既設道路の維持補修工事のほか、多くのインフラ施設の経常的な維持管理経費、老朽化が進む施設の修繕、補修工事に係る経費が主な支出となる。開発行為などにより、年々新設道路が増加する一方で、施設老朽化比率は上昇傾向にあり、その比率は市保有施設全体よりも高く、また道路の管理延長も増加している。施設老朽化比率が高い現状においては、維持補修費を増やし事故防止や苦情・要望に対応することも必要であるが、道路の新設以外に既存道路の更新・改修などの投資活動としての支出の増加がより求め</p>	<p>られる。</p> <p>また、道路周辺のみどり豊かな環境づくりも重要事項であると考えており、街路樹の剪定等、これらにかかる物件費の確保も必須である。物件費削減は、吹田市全体のブランドイメージの低下につながる。維持補修費に限らず、物件費の適切な執行及び予算確保もまた本事業における課題の一つであり、本事業において国庫補助金等、他の財源についても確保できるよう、情報収集に努める必要があると考えている。</p>
--	--

IV 財務情報

◆貸借対照表【BS】

(単位：千円)

勘定科目		令和4年度末 A	令和5年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和4年度末 A	令和5年度末 B	差額 B-A
流動資産	現金預金	-	-	-	流動負債	546,379	586,318	39,939
	未収金	-	42	42	地方債	506,746	542,438	35,692
	財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
	短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	36,644	39,571	2,927
	徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
	その他流動資産	-	-	-	リース債務	2,990	4,310	1,320
事業用資産	有形固定資産	3,338,503	3,246,446	△92,057	固定負債	4,055,402	3,999,241	△56,161
	土地	1,073,298	1,012,761	△60,537	地方債	3,720,990	3,633,353	△87,638
	建物・工作物	2,250,429	2,171,445	△78,984	長期借入金	-	-	-
	リース資産	8,969	12,469	3,500	退職手当引当金	328,433	357,729	29,296
	建設仮勘定	5,806	49,771	43,965	リース債務	5,979	8,160	2,180
	無形固定資産	840	770	△71	その他固定負債	-	-	-
	有形固定資産	839,752,884	838,152,102	△1,600,783	負債の部合計	4,601,782	4,585,559	△16,223
	土地	789,906,983	790,749,697	842,713	純資産	838,492,810	836,815,233	△1,677,577
	建物・工作物	49,680,675	47,249,612	△2,431,063	純資産の部合計	838,492,810	836,815,233	△1,677,577
	建設仮勘定	165,226	152,793	△12,433	負債及び純資産の部合計	843,094,592	841,400,792	△1,693,799
固定資産	重要物品	2,364	1,433	△931				
	図書館資料	-	-	-				
	投資その他の資産	-	-	-				
	出資金	-	-	-				
	長期貸付金	-	-	-				
	基金	-	-	-				
	徴収不能引当金	-	-	-				
	その他債権	-	-	-				
	資産の部合計	843,094,592	841,400,792	△1,693,799				

◆行政コスト計算書【PL】

(単位：千円)

勘定科目		令和3年度	令和4年度 A	令和5年度 B	差額 B-A
経常収入	地方税	-	-	-	-
	分担金及び負担金	-	-	-	-
	使用料及び手数料	369,704	366,994	438,731	71,737
	国庫支出金(経常費用充当)	16,639	22,980	10,882	△12,098
	府支出金(経常費用充当)	4,950	1,815	1,403	△413
	財産収入	-	-	-	-
	寄附金	-	-	-	-
	他会計からの繰入金	-	-	-	-
	受取利息及び配当金	-	-	-	-
	その他	6,375,099	84,689	102,696	18,007
経常収入 小計(a)	6,766,392	476,478	553,712	77,234	
経常費用	給与関係費	461,603	456,933	480,669	23,736
	物件費	728,058	763,348	848,956	85,608
	維持補修費	339,882	440,643	463,264	22,621
	社会保障扶助費	-	-	-	-
	負担金・補助金・交付金等	8,273	1,331	17,190	15,859
	特別会計への繰出金	-	-	-	-
	減価償却費	2,269,407	3,115,820	2,891,088	△224,732
	徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
	賞与引当金繰入額	32,405	36,644	39,571	2,927
	退職手当引当金繰入額	27,348	28,561	47,741	19,180
支払利息	22,369	20,982	20,765	△217	
その他	183,214	-	2	2	
経常費用 小計(b)	4,072,559	4,864,261	4,809,246	△55,016	
経常収支差額(a)-(b)=(c)	2,693,833	△4,387,784	△4,255,534	132,249	
特別収入	固定資産売却益	-	-	-	-
	その他	1,238,476	3,483,027	979,171	△2,503,856
	特別収入 小計(d)	1,238,476	3,483,027	979,171	△2,503,856
	固定資産除売却損	2,414	-	-	-
	その他	44,671	164,013	459,676	295,663
特別費用 小計(e)	47,085	164,013	459,676	295,663	
特別収支差額(d)-(e)=(f)	1,191,391	3,319,014	519,495	△2,799,519	
一般財源調整額(g)	-	-	-	-	
当期収支差額(c)+(f)+(g)	3,885,224	△1,068,770	△3,736,039	△2,667,270	
一般財源充当額	1,821,230	2,162,594	2,046,116	△116,479	
一般会計からの繰入金	-	-	-	-	
一般会計への繰出金	-	-	-	-	
再計	5,706,454	1,093,824	△1,689,924	△2,783,748	

財務諸表の特徴的な事項

勘定科目等	特徴的な事項
【BS】事業用資産 土地	用途廃止に伴う所管換による減と都市計画道路先行取得用地買戻しによる増。差引60,537千円の減
【BS】インフラ資産 土地	寄附及び帰属等による道路用地の増と普通財産への所管換えによる減。差引842,713千円の増
【BS】インフラ資産 工作物	寄附、帰属及び改良工事等による増と減価償却等による減。差引2,431,063千円の減
【PL】使用料及び 手数料	道路占用料 437,925千円ほか
【CF】投資活動支出	穂波芳野線道路改良工事(その3) 84,961千円ほか

単位当たりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」÷「実績」)

単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
市民1人	コスト 10,752円	12,759円	12,578円
	実績 378,781人	381,238人	382,366人
市道1m	コスト 7,508円	8,927円	8,806円
	実績 542,436m	544,900m	546,119m
分析内容	・市民1人あたり 12,578円のコストがかかっている。令和6年3月31日現在の吹田市人口で算出している。		
	・市道1mあたり 8,806円のコストがかかっている。令和5年4月1日調製の道路延長で算出している。		

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表【CF】

(単位：千円)

区分	令和3年度	令和4年度 A	令和5年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	459,489	445,401	519,374	73,973
行政サービス活動支出	1,624,505	1,744,727	1,885,935	141,208
行政サービス活動収支差額	△1,165,016	△1,299,326	△1,366,561	△67,235
投資活動収入	89,000	124,001	143,597	19,596
投資活動支出	600,744	986,003	768,106	△217,897
投資活動収支差額	△511,744	△862,002	△624,509	237,493
財務活動収入	328,300	480,600	454,800	△25,800
財務活動支出	472,770	481,866	509,846	27,979
財務活動収支差額	△144,470	△1,266	△55,046	△53,779
収支差額 合計	△1,821,230	△2,162,594	△2,046,116	116,479
一般財源充当額	1,821,433	2,162,594	2,046,116	△116,479
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

人にかかるコストの内訳

	給与関係費等(千円)	うち時間外手当等(千円)	月平均従事人数(人)
常勤・再任用	532,178	15,317	59.26
会計年度任用等	35,803	-	-
特別職非常勤	-	-	-
合計	567,981	-	-

分析指標

(単位：%)

分析指標	年度	令和3年度	令和4年度 A	令和5年度 B	差 B-A
施設老朽化比率		61.0	62.5	64.4	1.9
施設維持補修費比率		0.2	0.3	0.3	0.0
経常費用対公共資産比率		3.0	3.5	3.5	0.0
徴収不能引当率		-	-	-	-
受益者負担比率		9.1	7.5	9.1	1.6
一般財源充当比率		67.5	67.3	64.7	△2.6